

School Library

読書
月間



令和5年11月2日発行 担当：図書委員会2年生

特別号

例年に比べてとても暑かった夏も終わり、ようやく秋らしい気温になってきました。
みなさんはいかがお過ごしですか。さて話は変わりますが、読書月間が11月2日から始まります。
図書委員会では読書月間中に2つのイベントを企画しています。ぜひお楽しみください！
どんな時でも本は読むことができます！暇な時間がある方は是非図書館に！

(担当：2-)



読書月間のお知らせ

期間：11月2日(木)～12月1日(金)



- ・ミニ図書館（各学年学習室）開館 10月31日(火)&11月24日(金)
- ・期間中朝学習の時間は朝読書の時間になる（8：25～8：35）
- ・図書委員おすすめの本POPで紹介
- ・期間中各クラス図書館来館者数 & 貸出冊数競争 ⇒ 終了後表彰予定
- ・図書と給食のコラボ（HAPPY BOOK MENU 11月6日予定）



私と読書 □先生

『つじのじつ話』
辻発彦 著
＜近日入荷予定＞



私と読書に掲載させていただくのも今回で三回目となりました。高校時代には、友達と「読書をするのがカッコいい」という話になり、休み時間に教室で小説を読んでいた（涼しい顔で）。そんな動機で本を読んでいたのも、当然、当時たくさん読んだ小説の中に、紹介できるくらい覚えているものはありません。

そういうわけで、今回は最近読んだ趣味の本を紹介します。「つじのじつ話～自分らしくあるがままの監督論～」です。著者は、昨年までプロ野球・西武ライオンズで6年間、監督を務めていた辻発彦さんです。私が応援している西武ライオンズで6年間、監督を務めていました。6年間でおおよそ850試合、辻監督が指揮をとる試合を見ました（年に数回は球場で）。そのくらい野球観戦が趣味です。辻監督は、2度のリーグ優勝という成績を残しただけでなく、人間的にとっても尊敬できる方です。辻監督の采配の特徴は、選手たちが生き活きと野球に取り組むことができることです。また辻監督自身も、自然体で監督という難しい仕事をしていました。監督を退いてから書かれたこの本では、辻監督の生き方・監督を行う上で大切にしていること・選手との関わり方や声掛けで意識していることなどが書かれています。私も学級や部活動で生徒のみなさんと関わる上で、参考にできることや考えさせられることが多くありました。趣味で読んだ本が、自分の生き方や考え方にも影響を与えてくれました。趣味や読書を通じて、自分の考え方が更新され、成長し、新しい自分に出会える。人生ってとても楽しくかけがえのないものだと思います。

(担当：2-)

私と読書 先生

『怪談5分間の恐怖』
中村まさみ 著 918な



みなさん本は好きですか？私は、昔から飽きっぽい性格で本を読むことがあまり好きではありませんでした。読書感想文などもとても苦手としていました。学生時代私と同じような想いを抱いている人もいないのではないのでしょうか……。そんな私が紹介するのは「怪談5分間の恐怖」です。この職業に就き初めて勤めた学校で、ある先生と出会いました。その先生は国語の先生でした。担当する学年や部活動も一緒だったこともあり色々な場面でお世話になりました。学校の先生としての生活に慣れ始めた頃に読書月間という取り組みが始まりました。私はどんな本を読もうかと悩んでいるとその先生が「私の学級文庫見に来なよ」と声をかけてくれました。そこにはたくさん本がありました。その中でもきになったのは「怪談」の本が多くあったことです。理由聞いてみると本が苦手な人を少しでも減らすためと言っていました。読書月間の最初に先生が一話読み聞かせをするとそのあとの休み時間に学級文庫の前に列ができていました。1週間後には怪談以外の学級文庫も借りられていました。その時に思ったのは読書を始めるきっかけさえあれば本には人を引き寄せる力があるのだと思いました。皆さんもそんなきっかけの1冊に出会うために図書館へ足を運んでみてはいかがでしょうか。
(担当：2)

図書委員のオススメ本

<テーマ 深まる秋 >

『魔女の宅急便』

角野栄子 著 913か

私が紹介する本は、「魔女の宅急便」という本です。

十二歳の魔女キキと相棒の黒猫ジジは「独り立ち」するためのはじめの街にやってきます。

そこで始めた仕事は宅急便屋。キキはミスをして落ち込んだりしながらも、

大事なことを発見していきます。

角野栄子さんの優しい言葉遣いが魅力的で、話もとても面白かったです。

ぜひ、手に取ってみてはいかがでしょうか。

(担当：2)



『死神うどんカフェ 一号店』

石川宏千花 著 913い

ハロウィンにおすすめの本は死神うどんカフェ1号店です。

この本はシリーズ6巻を通して、ヒロインの希子が死神とともに成長する青春グラフィティです。

死神が運営しているカフェという変わった設定で、個性豊かな死神が出てきます。

怖い話、ではなく、ほんとに死神か？となる人間のような死神です。

ぜひ読んでみてください。

(担当：2)

『ハロウィーンの魔法』

ルーマ・ゴッテン 著 933ご

ハロウィーンに起きた物語。セリーナが愛馬ハギスと一緒にマックじいさんの農場に迷いこんでしまったことからはじまりました。がんこ者のマックおじさんとセリーナとの間にできた目に見えない強い絆の物語。心の奥が温かくなる物語や絆の物語が読みたい人にオススメです。

(担当：2)

